

「PDCA 医療クオリティマネージャー養成」カリキュラム

【1】開設科目一覧

	科目名	必修／選択	単位数	時間数
＜1＞ クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論	医療データ分析概論	必修	1	15h
	DPC データ分析	必修	1	15h
	臨床指標分析	必修	2	30h
	BI ツール分析	必修	2	30h
	臨床疫学研究分析	必修	1	15h
＜2＞医療実データを用いたクオリティ・マネジメント PDCA 実践プログラム	PDCA サイクルに基づく医療の質の改善	必修	4	60h
	PDCA サイクルに基づく医療安全推進	必修	4	60h
	PDCA サイクルに基づく医療感染制御の確保	必修	4	60h
＜3＞ 大学院医歯学総合研究科 修士課程医歯理工学専攻 医療管理政策学(MMA)コース 開設科目	医療の TQM	必修	1	15h
	医療機能評価	必修	1	15h
	医療と社会の安全管理	必修	1	15h
	医療機関リスク管理	必修	1	15h
	衛生工学・汚染管理	必修	1	15h
	病院情報管理学	必修	1	15h
	診断情報管理学	必修	1	15h
	健康情報データベースと統計分析	必修	1	15h
	戦略と組織	必修	1	15h
医療におけるリーダーシップ論	必修	1	15h	
＜4＞ワークショップ	ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論	必修	1	15h

30 単位 450 時間

※全て講義形式とする。：1 単位 15 時間

【2】修了要件

下記に示す修了要件単位 30 単位全てを修得すること。

＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論 5 科目 7 単位

＜2＞医療実データを用いたクオリティ・マネジメント PDCA 実践プログラム 3 科目 12 単位

＜3＞大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻医療管理政策学 (MMA) コース

10 科目 10 単位

＜4＞ワークショップ 1 科目 1 単位

【3】修業年限

1 年

【4】履修対象者

医療の質保証、安全管理、感染制御等の業務を担うとともに、医療機関の組織マネジメントに関与する意欲のある医師、後期研修医、医師管理職及びその他の医療従事者。

なお、大学院修士課程に相当するカリキュラムであるため、学部卒業程度の学歴があることを出願要件とする。

平成27年度 PDCA医療クオリティマネージャー養成プログラム時間割

月	日	時限	月	火	水	木	金	科目コード	講義室	科目責任者	備考
4月	13~17	18:00~21:10	＜1＞1. 医療データ分析概論					9101	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	伏見 清秀	
	20~24	18:00~21:10						—	—	—	
5月	4/27~5/1	18:00~21:10	＜1＞2. DPCデータ分析	祝日	＜1＞2. DPCデータ分析			9102	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	今井 志乃ぶ (国立病院機構)	
	5/4~5/8	18:00~21:10						—	—	—	
	11~15	18:00~21:10	＜1＞3. 臨床指標分析					9103	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	森脇 睦子 (国立病院機構)	
	18~22	18:00~21:10	＜1＞3. 臨床指標分析					9103	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	森脇 睦子 (国立病院機構)	
	25~29	18:00~21:10	＜3＞3. 医療と社会の安全管理 (MMAコース)		＜3＞3. 医療と社会の安全管理 (MMAコース)			4021	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	河原 和夫	
6月	1~5	18:00~21:10	＜3＞4. 医療機関リスク管理 (MMAコース)		＜3＞4. 医療機関リスク管理 (MMAコース)			4022	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	安原 真人	
	8~12	18:00~21:10						—	—	—	
	15~19	18:00~21:10	＜3＞2. 医療機能評価 (MMAコース)					4024	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	河原 和夫	
	22~26	18:00~21:10	＜1＞4. BIツール分析					9104	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	石川ベンジヤン光一 (国立がん研究センター)	
7月	6/29~7/3	18:00~21:10	＜1＞4. BIツール分析					9104	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	石川ベンジヤン光一 (国立がん研究センター)	
	6~10	18:00~21:10	＜3＞6. 病院情報管理学 (MMAコース)					4041	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	高瀬 浩造	
	13~17							—	—	—	
	20~24	18:00~21:10	祝日	＜3＞7. 診断情報管理学 (MMAコース)				4042	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	伏見 清秀	
	27~31	18:00~21:10	＜1＞5. 臨床疫学研究					9105	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	伏見 清秀	
8月	17~21	(未定)	＜2＞1. PDCAサイクルに基づく医療の質の改善					9201	(学内実習)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
	24~28	(未定)						9201	(学内実習)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
9月	8/31~9/4	(未定)	＜2＞1. PDCAサイクルに基づく医療の質の改善					9201	(外病院実習)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
	7~11	(未定)						9201	(外病院実習)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
	14~18	(未定)	＜2＞2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進					9202	(学内実習)	尾林 聡	
	21~25		祝日	祝日	祝日		—	—	—		
10月	9/28~10/2	(未定)	＜2＞2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進					9202	(学内実習)	尾林 聡	
	5~9	18:00~21:10	＜3＞5. 衛生工学・汚染管理 (MMAコース)					4062	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	湯浅 和博 (東京工業大学)	
	12~16	18:00~21:10	祝日	＜3＞9. 戦略と組織 (MMAコース)				4071	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	林 大樹 (一橋大学)	
	19~25	(未定)	＜2＞2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進					9202	(学内実習)	尾林 聡	
	26~30	(未定)	＜2＞2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進					9202	(学内実習)	尾林 聡	
11月	2~6	(未定)	＜2＞3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保	祝日	＜2＞3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保			9203	(学内実習)	小池 竜司	
	9~13	18:00~21:10	＜3＞10. 医療におけるリーダーシップ論 (MMAコース)					4083	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	田中 雄二郎	
	16~20	18:00~21:10	＜2＞3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保						(学内実習)	小池 竜司	
	23~27	18:00~21:10	祝日	＜3＞1. 医療のTQM (MMAコース)				4023	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	高瀬 浩造	
12月	11/30~12/4	18:00~21:10	＜3＞8. 健康情報データベースと統計分析 (MMAコース)					4102	大学院講義室2 (M&D7F-13階)	高瀬 浩造	
	7~11	(未定)	＜2＞3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保					9203	(学内実習)	小池 竜司	
	14~18	(未定)	＜2＞3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保					9203	(学内実習)	小池 竜司	
1月	11~15	18:00~21:10	祝日	＜4＞ ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論				9401	大学院講義室1 (M&D7F-21階)	伏見 清秀	

- ＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論(5科目7単位)
- ＜2＞医療実データを用いたクオリティ・マネジメントPDCA実践プログラム(3科目12単位)
- ＜3＞大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻医療管理政策学(MMA)コース科目(10科目10単位)
- ＜4＞ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論(1科目1単位)

合計 30単位

<1>1. 医療データ分析概論

(Health Data Analysis)

科目コード: 9101

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	森脇 睦子	国立病院機構本部診療情報分析部 主任研究員	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・近年、DPCデータ、電子レセプトデータ等の医療アドミニストラティブデータの可用性が高まり、入手、分析が容易になってきている。これらのデータを用いた医療の分析、評価能力は医療クオリティマネージャーに必要とされる基本的な資質といえる。
- ・医療データ分析概論では、本PDCA医療クオリティマネージャー養成コースで学ぶ上で必要となる基礎的情報リテラシーを習得することを目指す。
- ・授業では、これらの医療データのoverviewを示すとともに、様々な分析手法、分析ツールを示す。さらに、利用可能な公開データ等を用いて、基本的なデータ分析手法、洞察力を身につけるための分析演習と発表、討論を行う。

概要

- 第1日: 我が国の医療データの概観、DPCデータ、レセプトデータ、患者調査・医療施設、患者調査等の官庁統計データ、SSMIXデータ等の内容の詳細と医療アドミニストラティブ(管理)データの概念とその利用手法
第2日: DPC診断群分類の概要およびDPC調査データを用いた各種分析手法について
第3日: DPCデータ、患者調査データ等の公表データの活用事例の提示と課題演習
第4日: 公表データ分析例および各自の問題意識と医療データ分析提案の発表(各20分)、総合討論

4. 授業の到達目標

- ・分析、研究に利用可能な我が国の医療データの概要を理解すること。
- ・医療データを用いた様々な医療評価手法の価値、限界、応用方法を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブ(管理)データの概念とその利用手法を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブデータを用いた医療の質、安全、感染制御等の評価の概要を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブデータの分析用のツールの概要を理解すること。
- ・公表されているDPCデータ、患者調査データ等の活用手法を理解すること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(50点)、発表(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等ができるよう準備しておくこと

9. 参考書

「診療情報による医療評価」(東京大学出版会)
DPCデータ活用ブック第2版(じほう)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するためには、Microsoft Excelを用いた基本的な分析能力を持つことが求められる。

11. オフィスアワー

平日10時～18時

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月13日 (月) 18:00～21:10	医療データの全体像 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀
2	4月14日 (火) 18:00～21:10	DPCデータ分析方法 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀
3	4月15日 (水) 18:00～21:10	公開データ分析演習 M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子
4	4月16日 (木) 18:00～21:10	分析事例発表と討論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子

<1>2. DPCデータ分析

(DPC Data Analysis)

科目コード:

9102

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	今井 志乃ぶ	国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部 主任研究員	k-shinobu@umin.ac.jp
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・ 分析手法の基本的な操作。
- ・ 医療の課題に対し、分析計画を立てる。分析報告資料を作成する。
- ・ 分析報告会を開き、全員でディスカッションを行う。

概要

第1日目:

- ① 実際のデータに触ってみる。(変数の定義と形式、縦持ち・横持ちデータ等、分析データの形式の理解。医薬品マスタ、手術マスタ、ICD-10等の理解。DPC分科会公表データの理解。)
- ② 小さな課題を解いてみる。(各自3問程度の実習用課題を分析—小テスト—)
- ③ 実習の解説とグループ分け(エクセルに慣れた学生を班長とする)

第2日目:(2~3人の少人数グループによる実習)

中課題により、分析手法の基本的な操作を習得する。中課題は、病院評価指標作成、臨床指標作成等から基礎的なものを扱う。

第3日目:(2~3人の少人数グループによる実習)

平均、最大値、最小値等を使いデータを俯瞰した後、パス分析、後発医薬品指数算出などの大課題に取り組む。

第4日目:(2~3人の少人数グループによる実習)

平均、最大値、最小値等を使いデータを俯瞰した後、地域分析(SWOT分析、シェア分析など)を用いた、問題解決型の課題を扱う。

4. 授業の到達目標

- ・ 診療情報、統計情報等のデータマネジメントと活用方法を理解すること。
- ・ 診療情報を活用した実習において、経営評価、診療評価等のための分析手法を身につけること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

グループでの作業参加状況(20%)、出席(40%)およびレポートの提出(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等、本授業の前に受けた講義内容を復習しておくこと。

9. 参考書

伏見清秀 監修・今井志乃ぶ 著 経営力・診断力を高めるDPCデータ活用術(日経ヘルスケア)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する傷病名コーディング、DPC・レセプトデータから取得できる医療情報に関する基本的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

授業後

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月27日 (月) 18:00～21:10	講義の進め方についての解説と簡単なデータ操作 M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里
2	4月28日 (火) 18:00～21:10	分析手法の基本的な操作を習得 M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里
3	4月30日 (木) 18:00～21:10	パス分析、後発医薬品指数算出などの大課題に取り組む M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里
4	5月1日 (金) 18:00～21:10	地域分析(SWOT分析、シェア分析など)を用いた問題解決型の課題を扱う M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里

<1>3. 臨床指標分析

(Quality Indicator Analysis)

科目コード:

9103

2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	森脇 睦子	国立病院機構本部診療情報分析部 主任研究員	
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	今井 志乃ぶ	国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部 主任研究員	k-shinobu@umin.ac.jp
	本橋 隆子	聖マリアンナ医科大学予防医学教室助教	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・「医療の質」を測る視点として、Donabedianが示した「ストラクチャー(構造)」、「プロセス(過程)」、「アウトカム(成果)」がよく用いられる。臨床指標は、プロセスやアウトカムを定量的に評価するために利用されている。
- ・授業では、臨床指標や病院機能分析について、基本的な概念や知識を概説する。
- ・演習では、DPCデータを用いて臨床指標の計測や病院機能分析を行う。さらに、臨床指標の算出や病院機能分析により医療安全、感染管理の視点での分析を行う。
- ・学生の実務上の経験や専門的視点から、計測結果の解釈に必要な分析や計測方法の検証、結果から導き出される改善策等の考案を行い、結果の活用法等について討議する。

概要

第1日:

- ・臨床指標の歴史的経緯、基本的概念とその活用法に関する方略を概説する。

第2日・3日目:

- ・すでに国立病院機構で活用されている「臨床評価指標」の中から数指標を選び、実際のデータをアクセスを用いて算出する。
- ・計測結果の解釈に必要な分析や計測方法の検証を行う。

第4日目・5日目:

- ・医療安全、感染管理に関する指標を実際のデータを活用して算出する。
- ・計測結果の解釈に必要な分析や計測方法の検証を行う。

第6日目・7日目:

- ・診療パフォーマンス分析等の問題解決型の課題から分析項目を選択し病院機能分析を行う。

第8日目:

- ・これまで授業で実施した分析手法を活用して、医療の質全般、医療安全、感染管理のいずれか1つを分析する。更に、それに対する計測結果の解釈、問題点の検索、改善策等をまとめる。
- ・取りまとめた内容について全体討議する。

4. 授業の到達目標

- ・医療の質の可視化における臨床指標に関する基本的な知識と分析手法を理解する。
- ・臨床指標による質管理の実際を理解する。
- ・病院機能分析の実践的活用方法を理解する。
- ・DPCデータを活用した臨床指標の計測および診療機能分析の手法と活用方法を理解する。
- ・診療情報、統計情報等のデータマネジメントと研究的活用方法を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

グループでの作業参加状況(20%)、出席(40%)およびレポートの提出(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等、本授業の前に受けた講義内容を復習しておくこと。

9. 参考書

「DPCデータ活用ブック」(じほう)

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

「国立病院機構 臨床評価指標2013(外部版)」

「国立病院機構臨床評価指標 計測マニュアル2013年 改訂版(国立医療学会)」

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する傷病名コーディング、DPC・レセプトデータから取得できる医療情報に関する基本的な知識および、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力が必要である。

11. オフィスアワー

授業後

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月11日(月) 18:00~21:10	臨床指標および病院機能分析に関する総論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
2	5月12日(火) 18:00~21:10	臨床指標の計測(1) M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 本橋 隆子 今井志乃ぶ
3	5月13日(水) 18:00~21:10	臨床指標の計測(2) M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 本橋 隆子 今井志乃ぶ
4	5月14日(木) 18:00~21:10	医療安全、感染管理に関する指標の計測(1) M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 本橋 隆子 今井志乃ぶ
5	5月18日(金) 18:00~21:10	医療安全、感染管理に関する指標の計測(2) M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 本橋 隆子 今井志乃ぶ
6	5月19日(火) 18:00~21:10	病院機能分析の実施(1) M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井志乃ぶ 森脇 睦子
7	5月20日(水) 18:00~21:10	病院機能分析の実施(2) M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井志乃ぶ 森脇 睦子
8	5月21日(木) 18:00~21:10	全体討議 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 今井志乃ぶ 森脇睦子

<1>4. BIツール分析

(BI Tool Analysis)

科目コード: 9104

2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	石川ベンジャミン光一	国立がん研究センター	
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	森脇 睦子	国立病院機構本部診療情報分析部 主任研究員	
	石井 理恵	医学部附属病院医療支援部	
	笠井 祥子	医学部附属病院臨床試験管理センター	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・ 比較的安価で高機能なBIツールのTableauを用いて、BIツールの基本的な使用方法を理解するために、基本的な演習とデータ分析実習を行う。
- ・ 次いで、病院組織マネジメント、患者マーケティング、地域医療分析、診療プロセス分析に関する具体的な課題に対して、データ提示、分析方針概説、データ分析実習、分析結果講評等を含む実習を行い、医療データ分析の考え方と分析手法を身につける。
- ・ 最終日には、グループ毎の実習結果の発表とグループ・ディスカッションによって、医療データ分析の考え方を深める。

概要

第1日: BIツールTableauの使用方法、簡単な演習と分析データ準備テクニックの概要

第2日: Storyboard機能の実習1

第3日: Storyboard機能の実習2

第4日: DPC様式1データの分析/組織別管理とケースミックス別管理分析

第5日: DPC様式1データの分析/診療圏分析

第6日: 厚労省DPC調査公開データの分析

第7日: EFファイルの分析/日単位での診療プロセス分析

第8日: 実習結果の発表とグループディスカッション

4. 授業の到達目標

- ・ 大規模医療データの探索的な分析手法を理解すること。
- ・ ビジネス・インテリジェント(BI)ツールの機能を理解して医療データの分析方法を身につけること。
- ・ 病院組織マネジメント、患者マーケティング、地域医療分析、診療プロセス評価のためのBIツールを用いた医療データ分析手法を身につけること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

ディスカッション参加状況(30%)、出席(30%)およびレポート(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業以前の講義でのデータ分析手法を習得していることが必要である。

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月22日 (月) 18:00～21:10	BIツール基本演習 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
2	6月23日 (火) 18:00～21:10	BIツール基本機能の実習1 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
3	6月24日 (水) 18:00～21:10	BIツール基本機能の実習2 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
4	6月25日 (木) 18:00～21:10	組織別管理とケースミックス別管理分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
5	6月29日 (月) 18:00～21:10	診療圏分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
6	6月30日 (火) 18:00～21:10	DPC調査公開データの分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
7	7月1日 (水) 18:00～21:10	診療プロセス分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一
8	7月2日 (木) 18:00～21:10	結果の発表とグループディスカッション M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一

<1>5. 臨床疫学研究

Clinical Epidemiology

科目コード:

9105

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	桑原 比呂世	クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン クリニカル・プロジェクトマネージャ	bxx03410@nifty.ne.jp
	新城 大輔	東京大学医学部附属病院データベースセンター助教	d-shinjo@umin.ac.jp
	今井 志乃ぶ	国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部 主任研究員	k-shinobu@umin.ac.jp
	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	shimizu@ihp.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

・DPCデータを用いた既存臨床疫学研究論文のover viewによって、医療アドミニストラティブ・データを用いた研究の手法、特徴、限界点を理解する。
・次いで、病院の実DPCデータを用いて、研究立案、データ抽出、統計解析、結果の解釈、論文化へ向けた課題検討等の臨床疫学研究の模擬実施を行う。小グループでの検討を行い、実習結果の発表とディスカッションによって研究手法を理解する。

概要

第1日: 論文事例を用いた医療アドミニストラティブ・データを使った臨床疫学研究の立案、データマネジメント、分析手法、論文化手法についての講義

第2日: 病院データを用いた臨床疫学研究の立案およびデータマネジメントの演習と実習

第3日: 臨床疫学研究分析の統計分析手法、結果提示方法、論文構成の演習と実習

第4日: 実習結果発表と総合討論

4. 授業の到達目標

- ・医療アドミニストラティブ(管理)・データを利用した臨床疫学研究の概要、利点、限界点を理解すること。
- ・DPCデータ等から臨床疫学研究に必要なデータセットを抽出し、各種統計分析等を行えること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(30点)、発表(30点)およびレポート(40点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

医療データ分析概論、DPCデータ分析演習、臨床指標分析演習、BIツール分析演習の内容を理解していること

9. 参考書

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

平日10時より18時

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月27日 (月) 18:00～21:10	医療アドミストラクティブ・データを用いた臨床疫学研究の概要 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世
2	7月28日 (火) 18:00～21:10	病院データを用いた研究立案とデータマネジメント実習 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世
3	7月29日 (水) 18:00～21:10	研究計画、分析、考案等の実習 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世
4	7月30日 (木) 18:00～21:10	成果発表と総合討論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世

〈2〉1. PDCAサイクルに基づく医療の質の改善

(PDCA Quality Improvement Practice)

科目コード: 9201

4単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	本橋 隆子	聖マリアンナ医科大学公衆衛生学助教	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

PDCA サイクルに基づく医療の質の改善の実習型講義(以下 PDCA 実習)では、講義内容をより深く理解し、実践力の習得を目的とし、1)学内演習型講義、2)病院実習型講義、3)ワークショップを実施する。

概要

医療の質の改善の取り組みには、医療とデータに関する両方の知識とそれに基づくデータ分析力、そして、その結果を臨床現場のスタッフと議論する能力が求められる。

PDCA 実習では、臨床評価指標の測定結果を多角的な視点で分析し、原因や問題点をデータから探っていく。また、データ分析から算出された結果が臨床実態を反映しているかなどについて、臨床現場の医師やスタッフと議論する。データによる分析結果と臨床実態の両面から問題点を抽出し、医療の質の改善のための計画立案を行う。本実習では、これらの実践的な手法を体得する。

4. 授業の到達目標

- ①臨床評価指標の測定結果を多角的な視点で分析できる。(PDCAの「C」)
- ②臨床現場のスタッフとデータに基づく議論ができる。(PDCAの「A」)
- ③分析結果と臨床実態から問題点を抽出し、改善計画を提案できる。(PDCAの「P」)
- ④PDCAサイクルの総マネジメントができる。医療アドミニストラティブ

5. 授業方法

学生参加型の講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

- ①プレゼンテーション資料(40%)
- ②プレゼンテーション(40%)
- ③発言頻度(20%)

8. 準備学習等についての具体的な指示

臨床指標分析演習の講義の内容を理解してと分析手法を習得しておくことが必要

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、<1>クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の(1)医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力、(3)臨床指標分析演習で習得する臨床指標とその分析方法に関する基礎的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表(詳細については、実習前までに決定し、連絡する。)

PDCA実習の流れは、病院選択→データ分析→プレゼンテーション資料の作成→病院ヒアリング→問題点抽出→計画立案となっている。また、ワークショップにて事例報告とディスカッションを行う。

1) 学内演習【1週目・2週目】

(平成27年8月17日(月)～20日(木)、24日(月)～27日(木))

- 医療の質の改善を実践する対象病院を選択する。
- 選択した病院の現状や問題点をデータ分析し、整理する。
- 病院実習の議論で使用するプレゼンテーション資料を作成する。

2) 病院実習【各学生:3週目のいずれかの半日～1日】

(平成27年8月31日(月)～9月3日(木))

○自分の対象病院を訪問し、事前に用意したプレゼンテーション資料を用いて、病院経営陣(院長・副院長・診療統括部長・看護部長)、各診療科医師、医療スタッフと問題点について議論するとともに、臨床実態についての情報を収集する。

※病院実習に参加できない学生は、病院実習に参加した学生と教員に対してプレゼンテーションを行い議論する。

【病院実習以外の日】

- データ分析結果と臨床実態から問題点を抽出し、改善計画を立案する。

3) ワークショップ【4週目の3日間】

(平成27年9月7日(月)～10日(木))

- 各学生が、担当した病院の事例を報告し、他の学生や教員と議論する。
- フィードバック

<2>2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進

Practice for medical safety with PDCA method

科目コード:

9202

4単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	尾林 聡	医学部附属病院安全管理対策室長	s.obayashi.gyne@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり。

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・医療安全管理とは、医療従事者が専門的視点に基づいて危険を予測し、期待される医療のため、患者とその家族のみならず医療従事者の外的・内的環境を整えるシステムである。
- ・管理目標は、単なる医療事故の発生回避だけではなく、最終的には患者と家族および医療従事者が、身体的および精神的にも脅かされたり消耗したりすることのない状態を保証することであり、医療の質の向上に向けた本質的活動である。
- ・医療安全に関するPDCAプログラムを作成し医療安全のマネジメントを担えること

概要

- ・安全管理対策室の業務内容の把握
- ・個別事例に対するの対応の実際の見学
- ・インシデント・レポートに基づく具体例への対応、特に、具体的事例への対応を通じ、問題点の抽出、安全対応策の作成およびグループワークによる評価により、PDCAサイクルの体験をする。
- ・院内数部署における安全管理への取り組みの見学
- ・安全管理研修および会議への参加、見学

4. 授業の到達目標

- ・医療事故およびエラーの発生要因ならびに背景要因を科学的に分析し、再発防止案を策定することができる。
- ・医療機関・教育機関において安全で質の高い医療を行いエラーを防止する目的で、実践、研究および教育を行うためのリーダーシップがとれる。
- ・安全管理の改善策に関してのレポートを提出

5. 授業方法

学生参加型の講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

①出席状況 ②プレゼンテーション ③発言頻度 ④提出レポート

- ・提出レポート（50点） その他（50点）
- ・成績の評価は、出席状況、講義・討議・実習への参加状況や発言状況から判断し、さらに研究内容、各種のグループワークにおける研究への参画状況などによって行う。
- ・提出レポートは研究内容および考案（考察）をもとに評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

医療安全は、①安全管理体制の構築、②医療安全に関する職員への教育・研修、③医療事故防止のための情報収集、分析、評価、改善策立案、④医療事故発生時の対応、⑤対象とする関係者における安全文化の醸成の5項目を最終的な目的としている。このため、講義前の準備として、これら5項目に対して一定の予備知識を有しておくことが望ましい。

9. 参考書

中島和江編 医療安全ことはじめ 医学書院

出河雅彦 ルポ 医療事故 朝日新書

河野 龍太郎 医療におけるヒューマンエラー 第2版: なぜ間違える どう防ぐ 医学書院

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、<1>クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の(1)医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力、(3)臨床指標分析演習で習得する臨床指標とその分析方法に関する基礎的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表(詳細については、実習前までに決定し、連絡する。)

1週目(平成27年9月)

医学部付属病院の医療安全管理体制の理解

安全対策室業務の理解

事故発生時の対応の理解

医療事故に対する倫理と法的問題

インシデント・レポート内容の理解

インシデント・レポート症例検討会(事例分析)への参加・見学

安全対策会議への出席・見学

院内安全巡視への参加・見学

院内医療安全研修会への参加(輸液ポンプ・中心静脈カテーテル・レスピレーターなど)

2週目(平成27年9月)

個別事例への対応の実際を見学し、発生事例に対する対応、原因解析、改善策の立案を見学する。

患者相談室における患者と家族への対応を見学する。

医師・看護師・事務における連携(合同会議)の見学

診療端末におけるインシデント・レポートの解析演習

インシデント・レポート内容(レベルI or II)から、各事例に対する既存の対応策を抽出する

3週目(平成27年9月)

抽出したレポート内の対応策の評価を行う(グループワーク)

模擬患者を用いた安全管理実習を行い、実際の医療現場における医療安全への取り組みと改善策の立案を行う

リスクマネージャー会議(月1回)の見学

手術室内でのタイムアウトの見学

内視鏡室でのタイムアウトの見学

4週目(平成27年9月)

作成した個別対応策の評価を行う(グループワーク)

メディカル・セーフターを利用した問題抽出方法を学習する。

実習の総括として、改善策の妥当性を再評価し、さらに病院内の医療システム上の問題点も抽出、討議する。

<2>3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保

(PDCA Infection Control Practice)

科目コード: 9203

4単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目担当者	小池 竜司	医学部附属病院感染制御部長	koike.rheu@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

PDCAを用いた感染制御活動の改善手法を身につける

概要

・ 当院の感染制御活動に実際に参画し、ルーチンのサーベイランスとして集積されている情報と感染管理システムを活用し、1) 全般的状況の俯瞰的把握、2) 感染管理上の問題点ないしその「芽」となりうるシグナルを抽出、3) シグナルの意味する問題とその指標となる因子の設定、4) 問題点の改善または「芽」の段階で解消するための介入策立案、5) 介入策実施またはそれをシミュレーションし、アウトカムの評価、6) プロセスを総括し、改善案の考察、といったPDCAサイクルを実体験しマネジメント能力を養成する。

4. 授業の到達目標

- ・ 院内感染の発生要因ならびに背景要因を科学的に分析し、再発防止案を策定することができる。
- ・ 医療機関・教育機関において確実な感染制御を確保する目的で、実践、研究および教育を行うためのリーダーシップがとれる。
- ・ 感染制御の改善策に関するレポートを提出

5. 授業方法

学生参加型の講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

①出席状況 ②プレゼンテーション ③発言頻度 ④提出レポート

・ 提出レポート (50点) その他(50点)

・ 成績の評価は、出席状況、講義・討議・実習への参加状況や発言状況から判断し、さらに研究内容、各種のグループワークにおける研究への参画状況などによって行う。

・ 提出レポートは研究内容および考案(考察)をもとに評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の(1)医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表(詳細については、実習前までに決定し、連絡する。)

実データを用いたQ/M PDCA実践プログラム

第一週:指標の選択と評価;電子カルテとともに、独立した感染管理支援システム(KD-ICON社)を用いて可能(平成27年10月)

- ・多剤耐性菌、院内感染原因菌の検出状況、当該患者の状態について情報収集する。
- ・血液、髄液、体腔液などの重要な検体から細菌検出が確認された症例をリスト化し、診療科、基礎疾患、病態についての情報収集を行う。
- ・抗菌薬の使用状況を集計し、広域スペクトルの薬剤、抗MRSA薬、特殊な細菌に対する薬剤などの使用状況を集計する。
- ・届出対象の感染症、病原体の情報を集計し、状態、管理状況、防御策の実施状況について情報収集する。
- ・診療科、検体種類、採取時期などで病原体検出状況を集計し、それぞれの特徴や傾向の変化を調査する。
- ・職業曝露の発生状況、内容の詳細に関する分類と原因の集計と可視化。

第二週(平成27年10月)

- ・第一週で調査した項目から一つを選び、院内感染制御上の意義と現状の問題点を明確化する。
- ・指標となる項目に対し、感染制御上意義のある介入策を策定する。
- ・介入策が感染制御上および医療の質改善のためにどのような意義があるかを考察し、議論を行う。
- ・介入策によって期待される点、必ずしも好影響とならない可能性や問題点を考察し、それぞれを列挙する。
- ・介入策の実施のために必要なインフラ、物品をリスト化し、必要なものは確保する。
- ・評価方法を策定し、そのための指標を設定する。

第三週(平成27年10月)

- ・介入策の実施状況、当初の計画との齟齬について評価を行い、明確化する。
- ・あらかじめ決めた評価指標について評価を行う。
- ・介入実施にあたり、時相(前・中・後)ごとに生じた問題や障害を抽出し、その理由やプロセスを明確化する。
- ・明確化した問題点をもとに介入策を改善ないし新たに策定し、そのための指標設定を再度行う。

第四週(平成27年10月)

- ・ここまでの課程を総括し、感染制御全般における位置付けや意義を再考察する。
- ・実施した介入策および改善した策について、あらためて感染制御および医療全般における意義を考察する。
- ・問題点を自身の活動で解決可能なものとそうでないものに区分し、特に後者について解決のために必要なアプローチについて考察する。

<3>1. 医療のTQM

Total Quality Management in Health Care

科目コード: 4023 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	飯塚 悦功	東京大学 名誉教授	iizukay@tqm.t.u-tokyo.ac.jp
	小林 美亜	千葉大学大学院看護学研究科 准教授	miak@mti.biglobe.ne.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ① 医療の水準・質の定義
- ② 医療におけるTQMの歴史
- ③ 医療におけるTQMの概要
- ④ 医療におけるTQM活動の実際
- ⑤ 医療の質マネジメント
- ⑥ 医療の質管理におけるクリニカルパス

概要

日本においても医療の質についての議論が行われるようになってきているが、社会が納得できるような意味での質保証は未だ十分には行われていない。ここでは、医療における質保証の基本的な方法論について習得し、またそれを実践する上での問題点について検討する。

4. 授業の到達目標

- ① 医療の質の要素について理解を深める。
- ② 医療の質保証の方法論について検討する。
- ③ 日本における医療の質保証の現状について確認する。
- ④ 今後の医療におけるTQMの活動について議論する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席およびレポート。(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

教科書および参考書などに目を通しておくこと。また、医療機関におけるTQM活動について情報収集しておくこと。

9. 参考書

教科書:

・上原、黒田、飯塚、棟近、小柳津「医療の質マネジメント～医療機関におけるISO 9001の活用～」(日本規格協会)2003年

・飯塚、棟近、上原「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド」(日本規格協会)2006年

参考書:

・高瀬、阿部 編「エビデンスに基づくクリニカルパス～これからの医療記録とヴァリアンス分析～」(医学書院)2000年

・飯田修平「医療における総合的質経営」(日科技連)2003年

・飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦 監修「医療の質用語事典」(日本規格協会)2005年

・飯塚悦功、棟近雅彦、上原鳴夫監修「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド～」(日本規格協会)2006年

・飯塚悦功、水流聡子「医療品質経営」(医療企画)2010年

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

系2の「医療の質の確保とリスク管理」全般との関連も深いが、系10の「臨床研究・治験」との関連もある。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月24日 (火) 18:00～21:10	医療の質マネジメント	飯塚 悦功
2	11月25日 (水) 18:00～21:10	医療のTQM概論	高瀬 浩造
3	11月26日 (木) 18:00～21:10	クリニカルパス	小林 美亜
4	11月27日 (金) 18:00～21:10	医療のTQM実践	高瀬 浩造

<3>2. 医療機能評価

Evaluation of quality and reliability of health care system

科目コード: 4024 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野・教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	河北 博文	社会医療法人 河北医療財団 理事長	
	藍 真澄	保険医療管理学分野 教授	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療機能評価機構などで実施されている病院機能評価の実態、評価に関連する統計資料をもとにわが国の病院機能評価の現状と問題点を理解する。特に、誰のために何を目的とした評価なのか、患者・家族の立場、医療関係者ならびにその他の関係者・関係団体の立場からも問題点や必要性を指摘できる能力を養い、理解を深めていく。そして、将来の最適な病院機能評価のあり方が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

概要

病院機能評価に関わる理念、目的、指標、方法、受益者、関係者の役割などを理解するために現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した病院機能評価のあり方を論じる能力を身につける。患者の視点から医療を捉えることに心がける。

4. 授業の到達目標

- ① 医療機関が患者・家族、地域住民及び関係者から求められている役割や使命を理解する。
- ② 各種医療関連データから病院機能評価にふさわしい指標や評価の仕組み、方法ならびに誰が何のために評価するのかを理解する。
- ③ 病院機能評価が始まった歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
- ⑤ 医療機関および医療人の役割の理解を通じて医療システム全体を評価できる資質を養う。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する(配点は100点)。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

8. 準備学習等についての具体的な指示

日本医療機能評価機構、厚生労働省、研究報告等で医療機能評価の概要、関係者の取り組み、問題点など現在の状況を調べておく。

9. 参考書

参考書: 日本医師会・厚生省健康政策局指導課「病院機能評価マニュアル」(金原出版)
Restructuring Hospital Quality Assurance: The New Guide for Health Care Providers Jean Gayton Carroll

参考サイト:

(財)日本医療機能評価機構ホームページ 「<http://jcqhc.or.jp/html/index.htm>」

JCAHO (Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations)ホームページ 「<http://www.jcaho.org/>」

AHRQ (Agency for Healthcare Research and Quality)ホームページ 「<http://www.ahrq.gov/>」

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「2.2 医療機関リスク管理」「2.3 医療のTQM」などMMAの中の多くの科目と関連する。

11. オフィスアワー

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月15日 (月) 18:00~21:10	医療機関および医療人の役割とその評価	河原 和夫
2	6月16日 (火) 18:00~21:10	医療機能評価概説	河原 和夫 菅河真紀子
3	6月17日 (水) 18:00~21:10	日本医療機能評価機構の活動	河北 博文
4	6月18日 (木) 18:00~21:10	医療保険制度からの評価	藍 真澄

<3>3. 医療と社会の安全管理

Safety management system in the medical facilities and in society

科目コード: 4021 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	satom@econ.hit-u.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	谷川 武	順天堂大学 公衆衛生学教室 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
	金谷 泰宏	国立保健医療科学院 部長	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・社会全体の安全対策・危機管理政策の概要
- ・医療安全対策(血液事業の安全対策も含む)
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態及びその予防・治療方針の概要
- ・原子力災害に関する職域等での健康危機管理
- ・患者・市民の立場に立った医療安全対策

概要

医療安全の推進が叫ばれて久しいが、安全・安心の社会を保持することは医療だけの問題ではなく、首都直下型地震や新型インフルエンザ、原子力関連事故等の医療に関わる健康危機管理事象への備えも必要である。加えて生活習慣等に起因する健康危機に対する個人レベルでの健康管理も現代社会では重要な課題となっている。講義では、これらの社会的要請が強い事象に関して、保健医療上の問題の本質を理解し、安全対策を進める上で不可欠な政策について言及する。また、諸外国の実情についても分析を行っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

- ・現代社会における危機管理について概説できる。
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態、予防・治療方針について説明できる。
- ・国および地域における健康危機管理・防災対策を説明できる。
- ・医療安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・血液事業の安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・新興・再興感染症の定義、疫学、近年の国内外の感染症アウトブレイクを概説できる。
- ・大規模震災対策(天災・人災)に対処すべき課題と必要な政策について説明できる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する(配点は100点)。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

8. 準備学習等についての具体的な指示

過去の医療事故や血液製剤を取り巻く訴訟、震災等の事例を調べ、そのイベントの特徴や対応の問題点などを整理しておく。加えて、昨今の医療安全および健康危機管理・災害対策、個人の健康管理政策の実態等についても書籍・インターネット等で調べておく。

9. 参考書

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」と関連する。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月25日 (月) 18:00～21:10	健康危機管理について	金谷 泰宏
2	5月27日 (水) 18:00～21:10	医療安全・社会安全対策総論／血液事業の 危機管理および安全対策	菅河 真紀子
3	5月28日 (木) 18:00～21:10	生活習慣や職環境等に起因する個人と社会 の健康危機管理	谷川 武
4	5月29日 (金) 18:00～21:10	総合討議	河原 和夫

<3>4. 医療機関リスク管理

Risk Management in Medical Institutions

科目コード: 4022 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	安原 真人	薬物動態学分野 教授	yasuhara.m.mpha@tmd.ac.jp
科目担当者	大川 淳	整形外科学分野 教授	okawa.orth@tmd.ac.jp
	長井 健人	(株)インターリスク総研	
	小池 竜司	感染制御部 部長	koike.rheu@tmd.ac.jp
	野村 徹	(株)テクノ・スタッフ、大阪大学大学院非常勤講師	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・大学病院におけるインシデントレポート分析
- ・企業家からみた大学病院のリスク管理の問題点
- ・プロセスマネジメントとしての医療リスク管理とメディカルリスク分析演習
- ・医療機関における感染症対策と危機管理
- ・医薬品の適正使用

概要

医療機関における医療事故と感染症対策について講述する。医療事故の分析評価手法であるインシデントレポート、RCA、FMEAなどの有効性と限界、企業のリスク専門家からみた医療安全管理上の問題点と方策、医薬品の適正使用、感染危機管理のフレームワーク、感染対策委員会・インфекションコントロールチームの組織と機能、感染症アウトブレイクに対する危機管理の実例とシミュレーションなどについて、講義・演習を行う。

4. 授業の到達目標

- ・医療機関におけるリスクマネジメントの実際を理解し、メディカルリスクマネジメントの手法を学ぶ。
- ・医薬品の関わるリスクと安全対策を理解する。
- ・医療機関における感染症対策と危機管理を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席、授業での態度、レポートにより総合的に評価する。(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:特になし。

参考書:米国医療の質委員会/医学研究所「人は誰でも間違える」(日本評論社)

中島和江、児玉安司「ヘルスケアマネジメント」(医学書院)

河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー」(医学書院)

10. 履修上の注意事項

「2.1 医療と社会の安全管理」が国全体もしくは社会の安全管理を主として論ずるのに対し、本講では医療機関レベルでの問題にフォーカスを絞って述べる予定である。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月1日(月) 18:00~21:10	大学病院における医療安全管理教育 企業におけるリスクマネジメント	大川 淳 長井 健人
2	6月3日(水) 18:00~21:10	医薬品の安全性	安原 真人
3	6月4日(木) 18:00~21:10	院内感染対策と危機管理	小池 竜司
4	6月5日(金) 18:00~21:10	医療リスク管理 メディカルリスク分析演習	大川 淳 野村 徹

<3>5. 衛生工学・汚染管理

Health Engineering and Contamination Control

科目コード: 4062 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	湯浅 和博	東京工業大学大学院理工学研究科 准教授	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
科目担当者	岩堀 幸司	医療施設近代化センター	sengoku@heart.ocn.ne.jp
	鍵 直樹	東京工業大学大学院情報理工学研究科 准教授	kagi.n.aa@m.titech.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・病院施設の汚染管理の原則
- ・空気汚染物質と空気清浄
- ・施設管理運営コスト計画

概要

医療施設にとって、衛生的環境の確保は、病院内感染の予防にとって重要課題である。本科目では、施設の汚染管理の面から、汚染管理の原則、隔離手法、汚染源と汚染物質、空気清浄と空気調和、水利用、クロスコンタミネーションの防止、病院の廃棄物と処理、エネルギー管理、マネージメント手法などについて検討する。

4. 授業の到達目標

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 病院施設の汚染管理の原則(湯浅)
- ② 空気汚染物質と空気清浄(鍵)
- ③ 各部門における感染防止の考え方(岩堀)
- ④ 感染防止のディテール、ほか(岩堀)

7. 成績評価の方法

出席、演習、レポートにより評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。

9. 参考書

未定

10. 履修上の注意事項

「6.1 病院設計・病院設備」は特に関連性が高いため履修していることが望ましい。また、医療の質の確保のため、施設設備と衛生管理が重要であるため、医療の質の確保と危機管理系の各科目の基礎科目として密接に関連するものである。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月5日 (月) 18:00～21:10	病院施設の汚染管理の原則	湯浅 和博
2	10月6日 (火) 18:00～21:10	空気汚染物質と空気清浄	鍵 直樹
3	10月7日 (水) 18:00～21:10	各部門における感染防止の考え方	岩堀 幸司
4	10月8日 (木) 18:00～21:10	感染防止のディテール	岩堀 幸司

<3>6. 病院情報管理学

Hospital Information Management

科目コード: 4041 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	松浦 亨	北海道大学大学院社会医療管理学、北海道大学病院 臨床教授	macchan@med.hokudai.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ① 病院が管理する情報の範囲と種別を規定して、認識を深める。
- ② 病院情報と診療情報との意味論的な相違点を確認する。
- ③ 病院情報がどのように利用されるのかについて検討する。
- ④ 今後病院情報を管理する上での問題点について検討する。

概要

病院が取り扱う情報の種別および量は近年大幅に膨張しており、その管理について医療機関の責任が問われてきている。ここでは、病院情報を診療情報と区別するため、医療機関が扱う情報のクラスであると定義し(診療情報はインスタンスと定義される)、管理すべき緊急度の高い情報種別を中心に議論する。また、情報の使用目的、個人情報保護との係わり、病院情報システムについても理解を深める。

4. 授業の到達目標

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ①情報の定義、種別と範囲
- ②病院情報の管理とは
- ③病院管理・経営に必要な病院情報インスタンス
- ④公的に要求される病院管理情報
- ⑤個人情報保護法と病院情報安全管理
- ⑥病院情報システムの概要

7. 成績評価の方法

出席およびレポート。(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に無いが、医療機関での情報管理の実態について考察しておくこと。また、情報理論の一般知識を持っていた方が理解しやすいので、簡単に一般書レベルで構わないので、目を通しておくこと。

9. 参考書

参考書: 福田剛久・高瀬浩造 編「医療訴訟と専門情報」(判例タイムズ社)

10. 履修上の注意事項

「6.2 診療情報管理学」。その他の大半の授業科目での情報ソースに対応している。積極的な議論参加が要求される。

11. オフィスアワー

12. 備考

積極的な議論参加が要求される。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月6日 (月) 18:00~21:10	情報管理の基礎	高瀬 浩造
2	7月7日 (火) 18:00~21:10	医療機関における情報管理	高瀬 浩造
3	7月8日 (水) 18:00~21:10	医療分野での情報化	高瀬 浩造
4	7月9日 (木) 18:00~21:10	大学病院での病院情報インスタンス	松浦 亨

<3>7. 診断情報管理学

Health Information Management

科目コード: 4042 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	麻生 玲子	(株)健康保険医療情報センター	
	前田 まゆみ	本学非常勤講師	
	桑原 比呂世	ヤンセンファーマ株式会社	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

概要

診療情報管理、診断群分類、包括評価、厚生統計等に関する最新の資料を配付し、プレゼンテーションを用いて講義を行った上で、質疑応答や学生の実務上の経験や意見に基づく討論等で理解を深める。配布使用予定の資料としては、ICD10コーディングのガイドライン、診断群分類DPCに関する中医協資料抜粋と厚生労働省研究班報告書抜粋、包括評価対応のためのマニュアル、厚生労働省諸統計の概要と研究報告書抜粋、諸論文の抜粋等を予定している。

4. 授業の到達目標

- ① 診療情報管理の概念とその実務を理解すること。
- ② 診断群分類および包括評価の概念と実務およびそれらの医療管理評価への応用を理解すること。
- ③ 診療情報、統計情報等のデータマネージメントと研究的活用方法を理解すること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

第1日: 診療情報管理総論、診療録管理の理論と実務、傷病名コーディングの理論と実務、診療報酬関連情報管理の実務、診断群分類の導入と効率的診療情報管理等に関する講義と討論(麻生講師)

診療情報と医療倫理(前田講師)

第2日: 診断群分類の理論と国際比較、日本版診断群分類DPCと包括評価の理論と実務、診断群分類を用いた医療管理の理論と実際等に関する講義と討論

第3日: 診断群分類を用いた医療の評価、我が国の医療提供体制の評価への診断群分類の応用、地域医療資源配分計画、地域保健医療計画と診断群分類等に関する講義と討論

第4日: DPCデータ等の医療業務データの分析手法(桑原講師)

7. 成績評価の方法

出席およびレポートの予定。(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

診療記録関連の法的背景、診療録の電子記録、診療記録の作成技法等については触れる時間がほとんど無いため、他講または参考書にてその概略を理解しておくことが望ましい。

9. 参考書

参考書:「DPCデータ活用ブック・第二版」(じほう社)
「21世紀の医療と診断群分類」(じほう社)
「DPCと病院マネジメント」(じほう社)
「民間病院におけるDPC導入事例集」(じほう社)
「疾病、傷害および死因統計分類提要」第2巻(厚生統計協会)
「医療科学」第2版(医学書院) 等

10. 履修上の注意事項

医療提供体制の設計と評価の点で「1.1 医療提供政策論」と、診療情報の電子化や病院システムとの関連で「4.1 病院情報管理学」と関連すると考えられる。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月21日 (火) 18:00~21:10	診療情報管理の基礎・診療情報と分析総論	麻生 玲子 伏見 清秀
2	7月22日 (水) 18:00~21:10	医療情報の標準化とDPC診断群分類包括 評価	伏見 清秀
3	7月23日 (木) 18:00~21:10	医療倫理と診療情報分析手法	前田 まゆみ 桑原 比呂世
4	7月24日 (金) 18:00~21:10	診療情報を用いた衣料評価	伏見 清秀

<3>8. 健康情報データベースと統計分析

科目コード: 4102 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	水嶋 春朔	横浜市立大学大学院情報システム予防医学部門 教授	shunsaku@yokohama-cu.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

概要

基本知識としての統計学的技法を説明した後、生物統計における2つの異なる潮流、すなわちピアソン型の質管理を重視した記述統計学とベイズ型の主観確率を重視した統計学について理解を深める。応用として医療政策の前提となる、診断、治療、医療の質の評価、医療の安全性、疫学、健康情報データベースにかかわる情報を収集して、的確に解釈し意思決定に反映させるための基礎知識と技術、統計法、公的統計の体系と整備について概説する。また、健康情報データベースによる根拠に基づいた健康政策のありかたについて議論する。

4. 授業の到達目標

- ・医療管理・政策に必要な統計学の基本を理解する。
- ・臨床疫学に必要な記述統計的手法を説明できる。
- ・臨床推論における主観確率論を理解する。
- ・研究における質保証に係わる統計的手法について説明できる。
- ・行政の実施している各種衛生統計の意義を説明できる。
- ・最新の医療・健康情報を収集し、科学的に解釈することができる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 医学基本統計学
- ② 生物統計学におけるピアソン統計学とベイズ統計学
- ③ デジタルデータとアナログデータ
- ④ 衛生統計学と健康情報データベースに基づく政策決定

7. 成績評価の方法

平常点および小課題への取り組みになどより総合的に評価する。(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

基礎的な基本統計学の知識を前提としている。

9. 参考書

教科書: 統計学の教科書は特に指定しないが、各自で準備すること。

参考書: 上畑鉄之丞 監訳「根拠に基づく健康政策のすすめ方」(医学書院) 2003年

10. 履修上の注意事項

すべての医療系分野、特に医療疫学と密接に関連する。「9.3 医学概論」の概念分析とも関連する。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月30日 (月) 18:00~21:10	根拠に基づく健康政策	水嶋 春朔
2	12月1日 (火) 18:00~21:10	基本統計学	高瀬 浩造
3	12月2日 (水) 18:00~21:10	統計学的推論・検定	高瀬 浩造
4	12月3日 (木) 18:00~21:10	統計学の応用	高瀬 浩造

<3>9. 戦略と組織

Business Strategy and Organization

科目コード: 4071 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科 教授	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp
科目担当者	清水 洋	一橋大学イノベーション研究センター 准教授	shimizu@iir.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

次の2つの課題について、組織の責任者として自ら深く考えるための枠組みを提供すること。

- ① 組織のリーダーとして、組織のミッションと目標をどのように定めるか。
- ② 組織目標を実現していくための「戦略」をどうつくるか。

概要

授業は担当教員による講義といくつかのグループに分かれてのクラス討議とで構成する。

4. 授業の到達目標

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

講義のテーマは以下を予定している。

- ① 戦略の基本的な考え方
- ② 競争戦略のアプローチ
- ③ 組織の基本的な考え方
- ④ 組織デザイン

7. 成績評価の方法

クラス討議への貢献度と提出レポートの評点(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

指定された読み物をきちんと読んできてください。

9. 参考書

教科書はない。参考書は授業の中で紹介する。

10. 履修上の注意事項

「1.2 医療社会政策論」「1.4 医療保険論」「8.1 人的資源管理」「8.2 人材の開発と活用」などと特に関連が深い。

11. オフィスアワー

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月13日 (火) 18:00~21:10	戦略の基本的な考え方	清水 洋
2	10月14日 (水) 18:00~21:10	競争戦略のアプローチ	清水 洋
3	10月15日 (木) 18:00~21:10	組織の基本的な考え方	清水 洋
4	10月16日 (金) 18:00~21:10	組織デザイン	清水 洋

<3>10. 医療におけるリーダーシップ論

Leadership in the Medical Institution

科目コード: 4083 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 雄二郎	臨床医学教育開発学分野 教授	ytanaka.merd@tmd.ac.jp
科目担当者	高橋 誠	臨床医学教育開発学分野 講師	takahashi.merd@tmd.ac.jp
	角 勇樹	生命機能情報解析学分野 教授	ysumi.pulm@tmd.ac.jp
	井津井 康浩	医学部附属病院総合診療部 講師	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

概要

病院は様々な専門職から構成される組織体であり、管理者はそれを一方向に導くことが求められる。医療制度が流動的な中、病院管理者には、先見性と統率力が求められる。大学病院および地域中核病院において行われた改革のケースを分析し方法論を抽出し、さらに近未来の医療の世界を俯瞰し求められるリーダーシップを論ずる。

4. 授業の到達目標

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

I)リーダーシップとは

リーダーシップに関する一般論を提供した後、医療におけるその特殊性について討論を行う。

II)リーダーシップを発揮するための方法について

前項での議論に基づき、いかに効果的にリーダーシップを発揮するかについて、①現状分析、②ネットワーク形成、③目標の確立、④意識改革、⑤組織変更について論ずる。

III)リーダーシップの実践について

リーダーシップのあり方は、リーダー自身の個性、能力により様々な形態をとることをCase Studyを通じて論ずる。

7. 成績評価の方法

出席、レポート(客観性・厳格性を担保できる評価方法を、出来るだけ具体的に記載願います。)

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

小倉昌男「経営学」(日経BP社)1999年刊

10. 履修上の注意事項

「7.1 戦略と組織」「8.1 人的資源管理」「8.2 人的資源管理と人材開発」

11. オフィスアワー

12. 備考

討論を主体とするため、教室の変更もあり得るので連絡に注意すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月9日 (月) 18:00~21:10	リーダーシップ総論	高橋 誠
2	11月10日 (火) 18:00~21:10	ケーススタディ	高橋 誠
3	11月11日 (水) 18:00~21:10	病院管理者に求められるリーダーシップ	高橋 誠
4	11月12日 (木) 18:00~21:10	討論まとめ	高橋 誠

〈4〉ワークショップ形式による学習成果発表と 総合討論

(Presentation of Achievements)

科目コード: 9401

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり。

3. 授業目的・概要等

授業目的

本コースの全授業を通して学習した成果を確認し、今後の活用方法を身につけることを目的とする

概要

第1日: 個別病院の医療の総合的な課題に関するデータ分析
第2日: 個別病院の医療の総合的な課題に関するデータ分析
第3日: 個別病院の医療の総合的な課題に関するデータ分析
第4日: 分析結果と解決手法提案の発表(各20分)と総合討論

4. 授業の到達目標

- ・ 個別病院の医療データを用いて、包括的な課題を明らかにすることができる能力を身につける。
- ・ 様々な課題に対して、その解決のための具体的な手順を提案し、PDCA手法に基づく実行を主導することができる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(20%)、発表内容(40%)およびレポート(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

10. 履修上の注意事項

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	1月12日 (火) 18:00～21:10	個別病院の医療の総合的な課題に関する データ分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
2	1月13日 (水) 18:00～21:10	個別病院の医療の総合的な課題に関する データ分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
3	1月14日 (木) 18:00～21:10	個別病院の医療の総合的な課題に関する データ分析 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
4	1月15日 (金) 18:00～21:10	分析結果と解決手法提案の発表(各20分)と 総合討論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子